

令和5年度採用

群馬県公立高等学校教員選考試験問題

地 理

受験 番号		氏 名	
----------	--	--------	--

注 意 事 項

- 1 「開始」の指示があるまでは、問題用紙を開かないでください。
- 2 問題は、1ページから13ページまであります。「開始」の指示後、すぐに確認してください。
- 3 解答は、すべて解答用紙に記入してください。
- 4 「終了」の指示があったら、直ちに筆記具を置き、問題用紙と番号順に重ねた解答用紙を机の上に置いてください。
- 5 退席の指示があるまで、その場でお待ちください。
- 6 この問題用紙は、持ち帰ってください。

1 次の文章は、「高等学校学習指導要領」（平成30年3月告示）の「地理探究」からの一部抜粋である。これについて、後の(1)、(2)の設問に答えよ。

1 目標

社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 地理に関わる諸事象に関して、世界の 的な諸事象の規則性、傾向性や、世界の諸地域の地域的特色や課題などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

(2) (中略)

(3) 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な を尊重しようとする事の大切さについての自覚などを深める。

2 内容

A (中略)

B (中略)

C 現代世界におけるこれからの日本の

(1) 持続可能な の探究

的相互依存作用や地域などに着目して、課題を探究する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識を身に付けること。

(ア) 現代世界におけるこれからの日本の の探究を基に、我が国が抱える地理的な諸課題の解決の方向性や将来の国土の在り方などを構想することの重要性や、探究する手法などについて理解すること。

(1) 文中の空欄 ～ に当てはまる語句をそれぞれ答えよ。

(2) 下線部について、学習指導要領では内容の取扱いについて、以下のように掲げている。これをふまえて、後の①、②の設問について答えよ。

3 内容の取扱い

(1) 内容の全体にわたって、次の事項に配慮するものとする。

ア (中略)

イ 地図の読図や作図、衛星画像や空中写真、景観写真の読み取りなど地理的スキルを身に付けることができるよう系統性に留意して計画的に指導すること。その際、教科用図書「地図」を十分に活用するとともに、地図や統計などの地理情報の収集・分析には、「地理総合」における学習の成果を生かし、地理情報システムや情報通信ネットワークなどの活用を工夫すること。

① 「2 内容」の大項目「A 現代世界の系統地理的考察」の「(1) 自然環境」の単元において、地理情報システムを活用した授業例を簡潔に書け。

② 生徒が地理情報システムを活用することで、どのようなスキルや能力が養えるか書け。

2 地球や地図について、以下の(1)～(5)の設問に答えなさい。

(1) 地球は、陸地面積が最大になる陸半球と、海洋面積が最大になる水半球に分けることができる。これらに関して、以下の①～③の設問について答えよ。

- ① 陸半球の中心地点と水半球の中心地点は地球上で正反対の位置関係にある。地球上で正反対の位置にある地点のことを何というか漢字で答えよ。
- ② 陸半球の中心をパリ南西部(北緯48度、東経0度30分)としたときの水半球の中心の緯度・経度を答えよ。
- ③ 陸半球の表面積について、その陸地と海洋の割合を示したものとして最も適当なものを、次のア～オから1つ選び、記号で答えよ。
- ア 1 : 1 イ 1 : 9 ウ 3 : 7 エ 7 : 3 オ 9 : 1

(2) 次の表1は、大陸ごとの高度別面積割合(%)を示したものであり、表1中のア～カはアジア、アフリカ、オーストラリア、北アメリカ、南アメリカ、ヨーロッパのいずれかの地域に該当する。次のア～カに該当する地域名をそれぞれ答えよ。

表1

	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	南極	全大陸
200m未満	24.6	52.7	9.7	29.9	38.2	39.3	6.4	25.3
200m～500m	20.2	21.2	38.9	30.7	29.8	41.6	2.8	26.8
500m～1,000m	25.9	15.2	28.2	12.0	19.2	16.9	5.0	19.4
1,000m～2,000m	18.0	5.0	19.5	16.6	5.6	2.2	22.0	15.2
2,000m～3,000m	5.2	2.0	2.7	9.1	2.2	0.0	37.6	7.5
3,000m～4,000m	2.0	0.0	1.0	1.7	2.8	0.0	26.2	3.9
4,000m～5,000m	4.1	0.0	0.0	0.0	2.2	0.0	0.0	1.5
5,000m以上	1.1	—	0.0	0.0	0.0	—	—	0.4
平均高度(m)	960	340	750	720	590	340	2,200	875

※アジアは、カフカスを含む。

※ヨーロッパは、カフカスを除く。

※オーストラリアは、ニューギニアなどを含む。

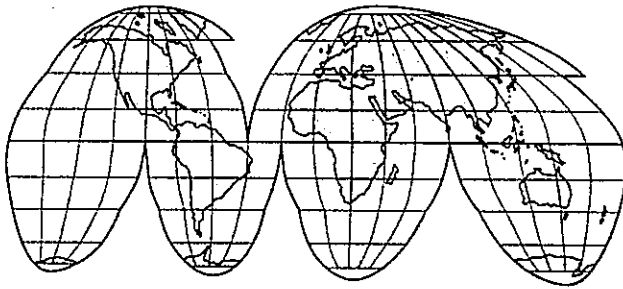
(「データブック オブ・ザ・ワールド 2022年版」により作成)

(3) 地図に関して述べた、次の文章(A)～(E)の空欄に入る語を書け。

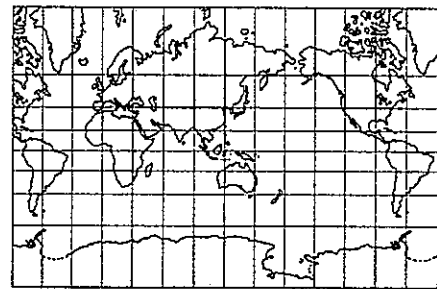
先史から古代にかけての地図では、重要な場所は中心や上部に配置され、周囲には未知の土地が想像で描かれた。メソポタミアで発見された(A)では、バビロンの都が世界の中心に描かれ、円盤状の大地がそれをとりまく海に浮いていると考えられていた。紀元前4世紀頃から、地球球体説が唱えられるようになり、(B)は、球体である地球を円すい面に投影する方法を考案し、緯線と経線の入った世界図を作った。

キリスト教が支配的となった中世ヨーロッパでは、キリスト教的世界観が反映されたエルサレムを中心とする(C)が作成され、地球球体説は否定された。その後、ヨーロッパでは、十字軍の遠征などをきっかけに、地球球体説が復活し、15世紀後半に作られた(D)の地球儀は、現存する最古の地球儀とされているが、(E)大陸は描かれていない。

- (4) 次のア、イの地図は、用途別に作成された地図の一部である。以下の①～③の設問に答えなさい。



ア



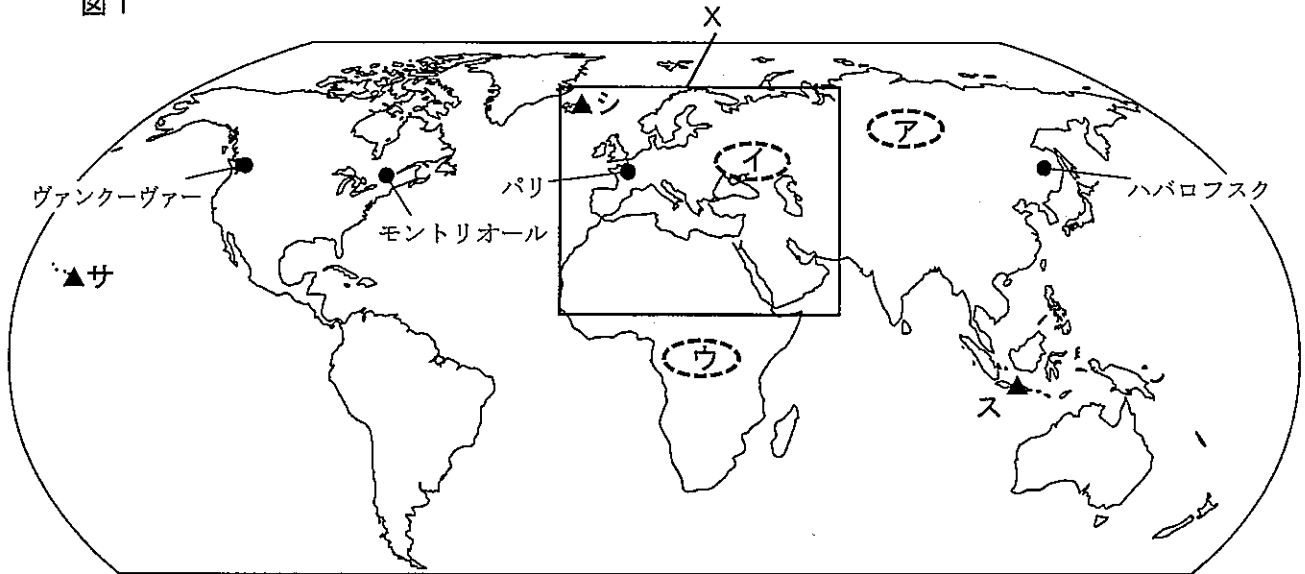
イ

- ① ア・イの地図の図法の名称をそれぞれ答えよ。
 - ② アの地図の図法の特徴を、主な用途を踏まえながら説明せよ。
 - ③ イの地図を活用して生徒が学習する際、どのような点に注意させる必要があるか、その図法の特徴に注目して説明せよ。
- (5) 地理情報とそれを表現することに適した統計地図について述べた文として最も適当なものを、次のあ～えのうちから1つ選べ。
- あ 市内への都道府県別の観光客数を示すために、等値線図を作成した。
 - い 県内の人口密度の状況を示すために、各町単位の階級区分図を作成した。
 - う 県内の市町村別の米の生産量を示すために、流線図を作成した。
 - え 市内からの船の航路を示すために、カルトグラムを作成した。

3 気候と地形について、以下の(1)、(2)の設問に答えなさい。

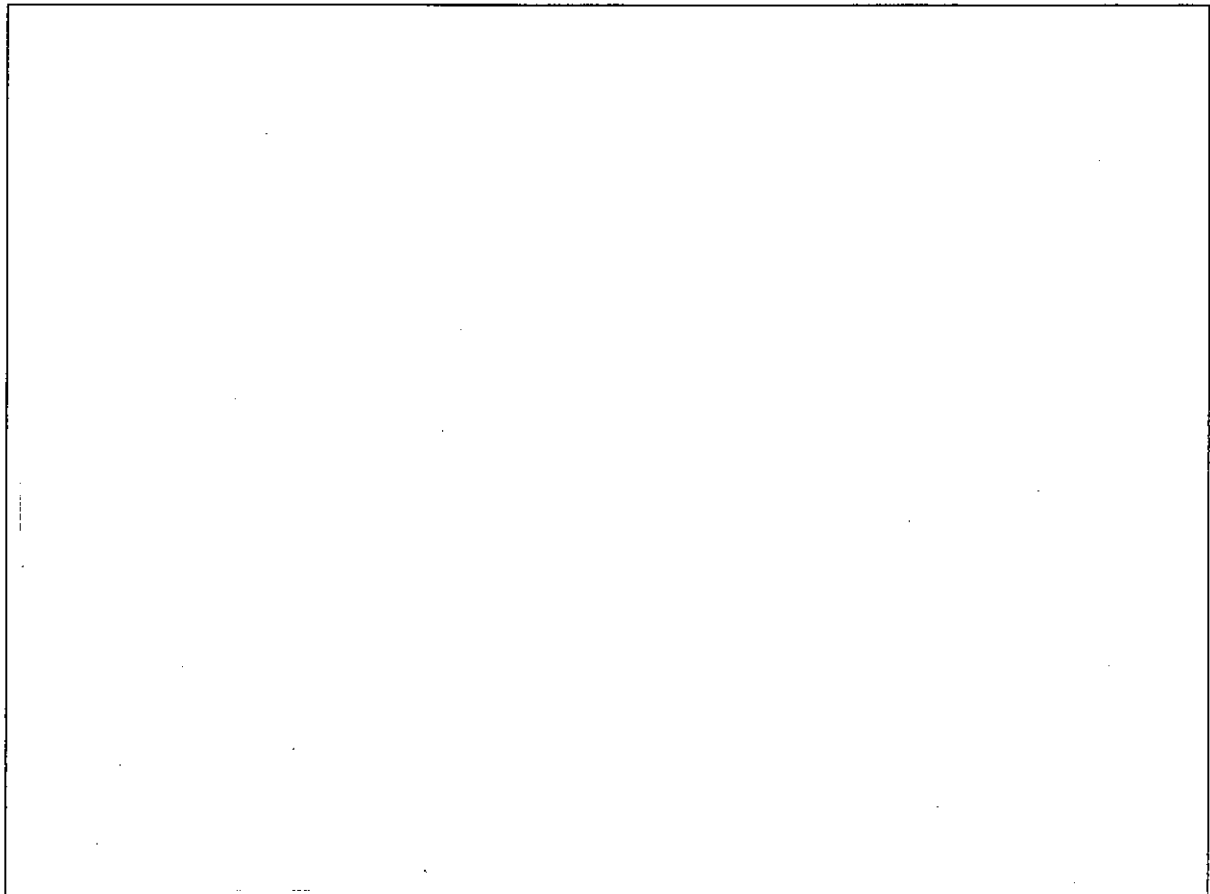
(1) 次の図1について、以下の①～⑤の設問に答えよ。

図1



① 図2のⅠ～Ⅲは、図1中のア～ウのいずれかの地域における生態系と養分の循環モデルを示したものである。ア～ウに該当するものを、図2中のⅠ～Ⅲからそれぞれ選び記号で答えよ。

図2



(「地理学講座3 環境と生態」により作成)

② 図1中のイの地域について、この地域に広く分布する黒色土壌を答えよ。また、この地域で行われている農業の特色について、土壌の特徴に触れながら簡潔に説明せよ。

③ 表1は、図1中のヴァンクーヴァー、モントリオール、パリ、ハバロフスクのいずれかにおける、1月または7月の降水量を示している。表1中のP、Qにはそれぞれ1月または7月のいずれかが当てはまる。表中のa～cの都市名をそれぞれ答えよ。

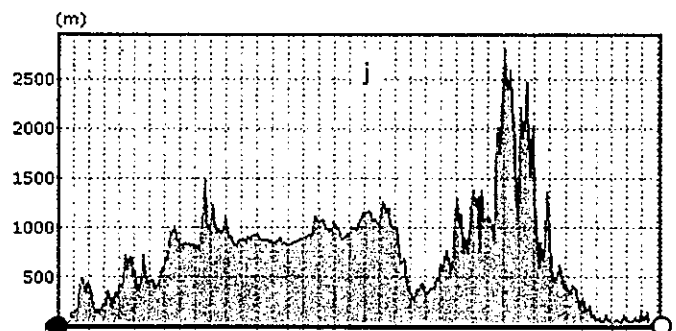
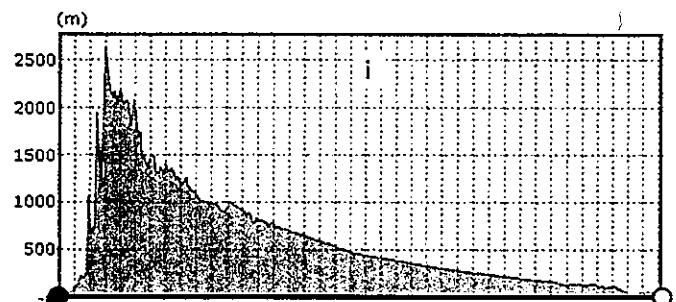
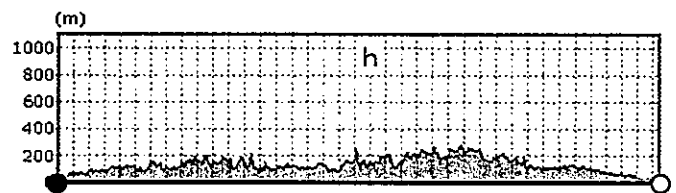
表1

		1月または7月の月降水量	
		P	Q
都市名	ヴァンクーヴァー	171.9mm	47.7mm
	a	44.8mm	53.1mm
	b	100.1mm	85.2mm
	c	15.4mm	126.1mm

(気象庁ホームページにより作成)

④ 次の地形断面図h～jは、図3中の●—○線カ～クのいずれかの地形断面を示したものである。カ～クの地形断面図として最も適当なものをそれぞれ選び、記号で答えよ。

図3 図1中のXの拡大図



※h～jは断面図の水平距離を揃えており、縮尺は一定ではない。
(「地理院地図」により作成)

- ⑤ 図1のサ～スに示した島では火山活動が活発である。それぞれの島で火山活動が活発である要因について、簡潔に説明せよ。

(2) 自然災害に関して、以下の①、②の設問に答えよ。

- ① 表2は2001年から2015年の間に発生した世界の主な自然災害の状況をまとめたものであり、表中のX～Zには、「地震」「熱帯低気圧」「火山噴火」のいずれかが当てはまる。X～Zに当てはまる項目をそれぞれ答えよ。

表2

発生年	災害の種類	国名（地域名）
2001	X	インド
2003	X	イラン
2004	Y	アメリカ合衆国、ジャマイカ、プエルトリコ、ハイチ
2004	X	スリランカ、インドネシア、モルディブ、インド、タイ、マレーシア、ミャンマー、セイシェル、ソマリア、タンザニア、バングラデシュ、ケニア
2005	Y	グアテマラ、エルサルバドル、メキシコ
2005	X	パキスタン、インド北部
2006	X/Z	インドネシア
2006	Y	フィリピン
2007	Y	バングラデシュ
2008	X	中国
2008	Y	ミャンマー
2010	X	ハイチ
2011	X	日本
2011	Y	フィリピン
2012	Y	フィリピン
2013	Y	フィリピン
2015	X	ネパール

※「地震」については津波による被害も含め死者・行方不明者5000人以上、「熱帯低気圧」と「火山噴火」については死者・行方不明者1000人以上の被害が発生したものを掲載した。

（「防災白書」により作成）

- ② 地理総合の「自然環境と防災」の授業において、日本で発生した自然災害と海外で発生した自然災害を比較して扱う際、事例として取り上げる自然災害と、生徒に考察させたい内容を説明せよ。

4 資源と産業について、以下の(1)、(2)の設問に答えなさい。

(1) 次の表1は、1965年、1990年、2010年における日本の原油輸入先上位5か国と、日本の輸入量全体に占める割合を示したものである。表中の空欄A～Cに当てはまる国名を、次のア～オから1つずつ選び、記号で答えよ。

- ア アメリカ合衆国 イ イラン ウ インドネシア
エ サウジアラビア オ ベネズエラ

表1 日本における主な原油輸入先の割合

1965年		1990年		2010年	
国・地域	割合 (%)	国・地域	割合 (%)	国・地域	割合 (%)
クウェート	25.1	アラブ首長国連邦	21.2	(B)	30.3
(A)	20.6	(B)	20.4	アラブ首長国連邦	20.6
(B)	18.8	(C)	12.3	カタール	11.8
中立地帯	15.7	(A)	10.0	(A)	9.8
(C)	7.3	中国	7.1	クウェート	7.5

※中立地帯とは、サウジアラビアとクウェートの間の非武装地帯を指す。

(「数字でみる日本の100年」により作成)

(2) 次の表2中のX～Zは、とうもろこしの生産量、輸出量、輸入量のいずれかの上位5か国を示したものである。この表の内容について、以下の①、②の設問に答えよ。

表2 とうもろこしの生産量、輸出量、輸入量の上位5か国 (2020年)

X		Y		Z	
1位	アメリカ合衆国	1位	メキシコ	1位	アメリカ合衆国
2位	中国	2位	日本	2位	アルゼンチン
3位	ブラジル	3位	中国	3位	ブラジル
4位	アルゼンチン	4位	ベトナム	4位	ウクライナ
5位	ウクライナ	5位	韓国	5位	ルーマニア

(FAO STATにより作成)

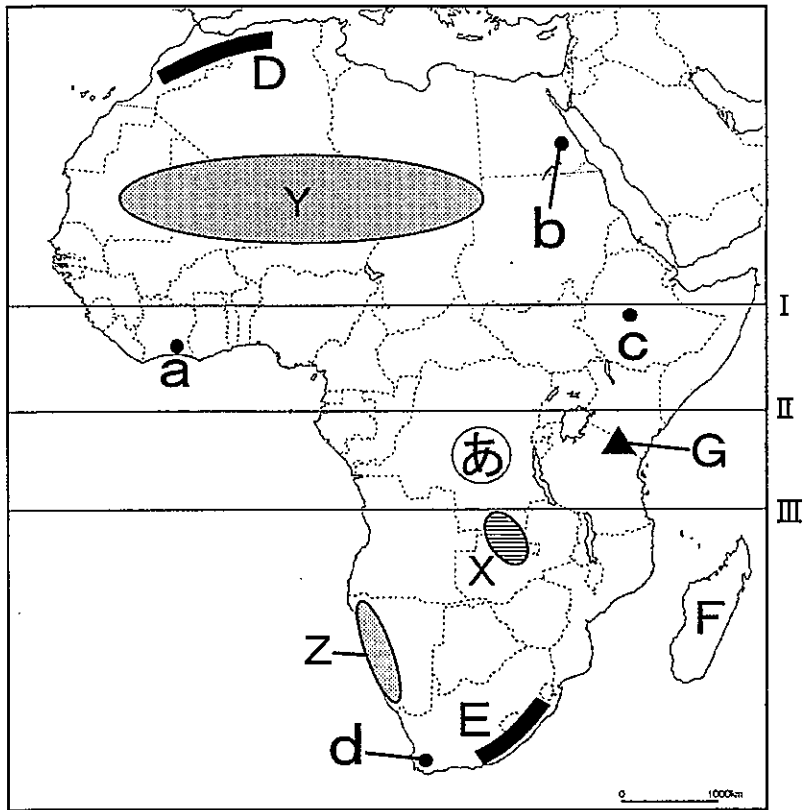
① 生産量、輸出量、輸入量とX～Zとの組合せとして適切なものを選び、a～fの記号で答えよ。

	a	b	c	d	e	f
生産量	X	X	Y	Y	Z	Z
輸出量	Y	Z	X	Z	X	Y
輸入量	Z	Y	Z	X	Y	X

② 近年、アメリカ合衆国のとうもろこしについては食用、飼料用のほか、ある用途に向けた生産が増えている。その用途を明示し、その用途に向けた生産増がもたらす問題点を簡潔に説明せよ。

5 アフリカ大陸について、後の(1)～(7)の設問に答えなさい。

図1



- (1) 図1中のI～IIIのうち、赤道に該当するものを選び、記号で答えよ。
- (2) 図1中のDおよびEの山脈、Fの島、アフリカ大陸最高峰のGの山の名称をそれぞれ答えよ。
- (3) アフリカ大陸には直線的な国境がみられる。この直線的な国境が引かれたことによって、どのような問題が生じているか説明せよ。
- (4) 図1中の㉠の国の旧宗主国名を答えよ。
- (5) 次の表1は、図1中のXの地帯で産出される、ある資源の産出割合上位8か国を示したものである。この資源名を答えよ。また、このXの地帯の名称を答えよ。

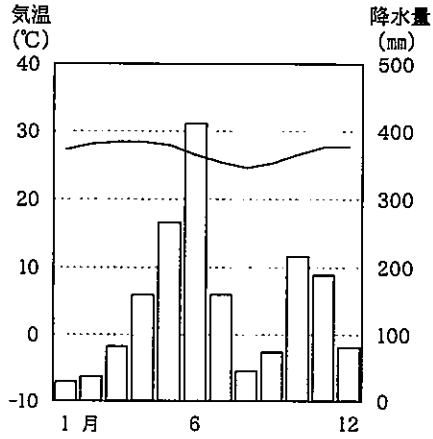
表1

	国名	産出割合 (%)
1	チリ	27.6
2	ペルー	11.7
3	中国	9.4
4	アメリカ	7.1
5	オーストラリア	4.7
6	コンゴ民主	4.2
7	ザンビア	3.8
8	メキシコ	3.7

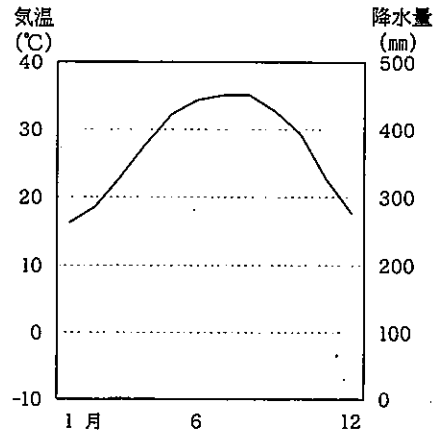
(「データブック オブ・ザ・ワールド 2022年版」により作成)

(6) 図1中のYとZの地域では、砂漠が共通してみられるが、その形成要因は異なる。それぞれの形成要因について説明せよ。

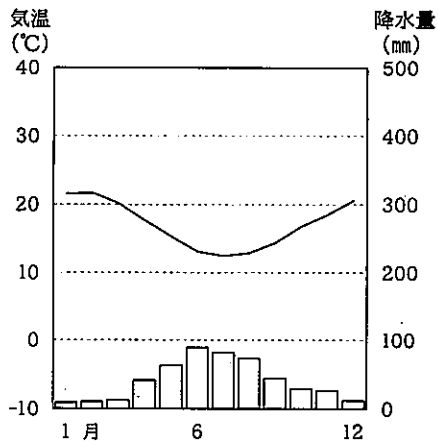
(7) 次のア～エの雨温図は、図1中のa～dのいずれかの地点のものである。図1中のc・dの地点に該当する雨温図を、ア～エの中からそれぞれ選び、記号で答えよ。また、そのように判断した理由をその地域で見られる気候の特徴を踏まえて説明せよ。



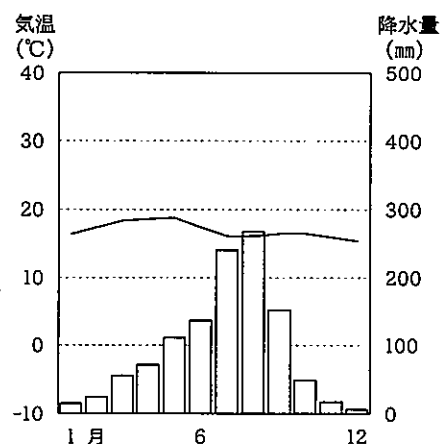
ア



イ



ウ



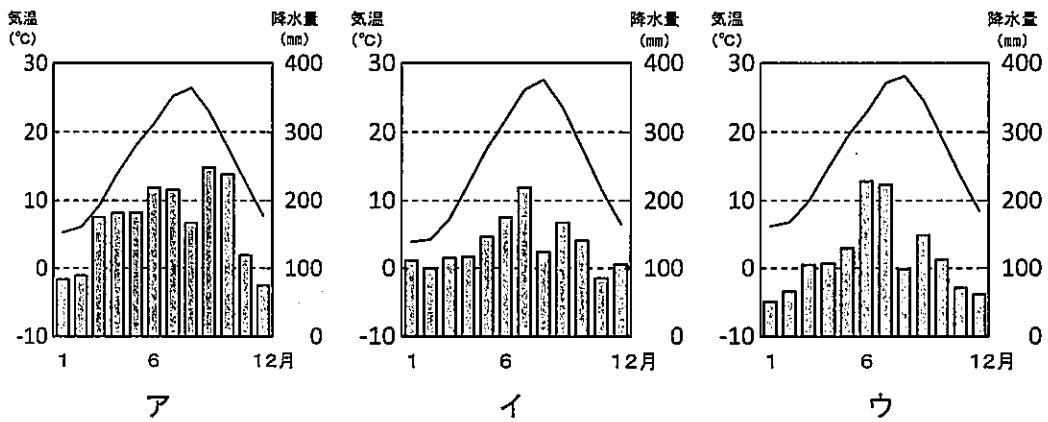
エ

(気象庁ホームページにより作成)

6 滋賀県彦根市における地域調査について、以下の(1)～(3)の設問に答えなさい。

(1) 後のア～ウの雨温図は、図1中の彦根、松山、小田原のいずれかの地点のものである。彦根に該当するものを1つ選び、記号で答えよ。また、そのように判断した理由を簡潔に説明せよ。

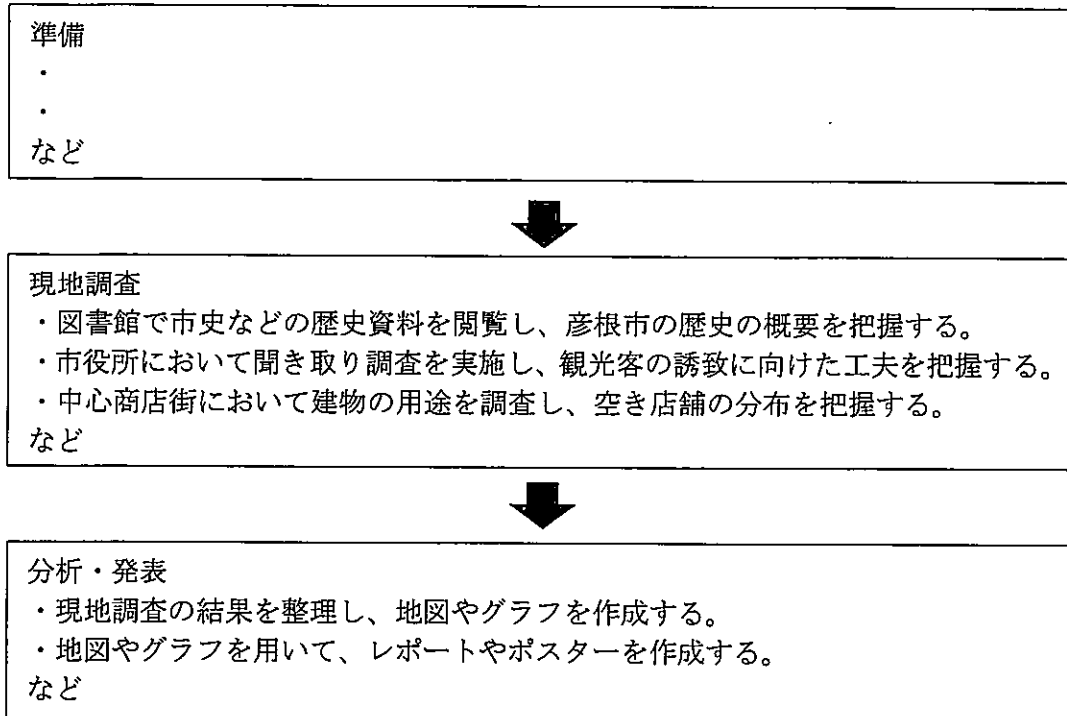
図1



(気象庁ホームページにより作成)

- (2) 「彦根市の歴史と観光」というテーマを設定し、図2のような手順で調査を実施する際、「準備」としてどのようなことを行うとよいか、2つ答えよ。

図2

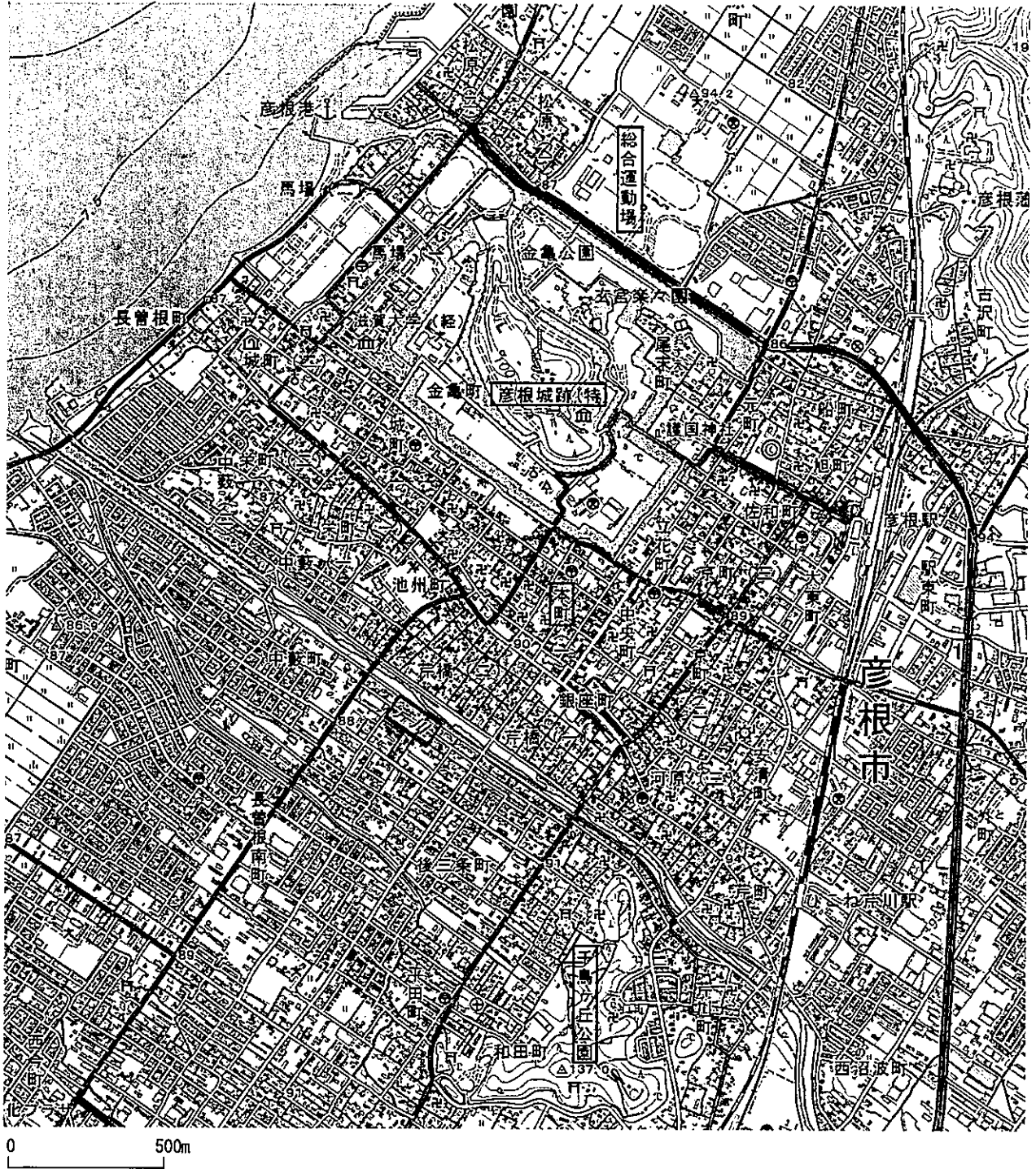


- (3) 生徒が歴史資料を閲覧する中で、図3の絵図を見つけた。あなたは教師として、図3と図4を活用した授業を構想した。どのような授業を展開するか書け。

図3 彦根地屋敷割絵図

(滋賀県立図書館ホームページより)

図 4



(「地理院地図」により作成)

地理解答用紙	2 枚中の 1	受験番号		氏名	
--------	---------	------	--	----	--

(5年)

1

(1) ア _____ イ _____ ウ _____ エ _____

(2) ① _____

② _____

2

(1) ① _____ ② _____ ③ _____

(2) ア _____ イ _____ ウ _____ エ _____ オ _____ カ _____

(3) (A) _____ (B) _____ (C) _____ (D) _____ (E) _____

(4) ① ア 名称 _____ イ 名称 _____

② _____

③ _____

(5) _____

3

(1) ① ア _____ イ _____ ウ _____

② 土壌の名称 _____

説明 _____

③ a _____ b _____ c _____

④ カ _____ キ _____ ク _____

⑤ サ _____

シ _____

ス _____

地理解答用紙	2 枚中の 2	受験番号		氏名	
--------	---------	------	--	----	--

(5年)

(2) ① X _____ Y _____ Z _____

② _____

4

(1) A _____ B _____ C _____

(2) ① _____

② _____

5

(1) _____ (2) D _____ E _____ F _____ G _____

(3) _____

(4) _____

(5) 資源名 _____ 地帯名 _____

(6) _____

(7) c 雨温図 _____ 理由 _____

d 雨温図 _____ 理由 _____

6

(1) 彦根 _____ 理由 _____

(2) _____

(3) _____

以下はあくまでも解答の一例です。

地理解答用紙	2 枚中の 1	受験番号		氏名	
--------	---------	------	--	----	--

(5年)

- 1
- (1)ア 追究 イ 空間 ウ 生活文化 エ 国土像 (各2点×4=8点)
- (2)① 例 インターネットで公開されているハザードマップを閲覧させ、地形図などと重ね合わせながら、
 被害予測と自然環境の関係について考えさせる授業を行う。 (5点)
- ② 例 地理情報を地図化したり、情報と情報を重ね合わせる技能と、そこから新たな課題や傾向を見いだす力。 (5点)
- 2
- (1)① ① 対蹠点 (2点) ② 南緯48度 西経179度30分 (4点) ③ ア (3点)
- (2)ア アジア イ ヨーロッパ ウ アフリカ エ 北アメリカ オ 南アメリカ カ オーストラリア
 (各2点×6=12点)
- (3) (A) バビロンの粘土板地図 (B) プトレマイオス (C) T.O図 (D) マルティン・ハイト (E) アメリカ など
 (各2点×5=10点)
- (4)①ア 名称 グード図法 (2点) イ 名称 メルカトル図法 (2点)
- ② 例 低緯度地方にサンソン図法、高緯度地方にメルワイデ図法を用い、緯度40度44分で2つの図法を接合した正積図で、
 海洋部に断裂を加えてひずみを小さくした図法であり、主に分布図に使用される。 (6点)
- ③ 例 経緯線は等間隔の平行線で、緯線が全て同じ長さで描かれるため、高緯度地域ほど面積や距離が拡大されることや、
 極地域を表現できないこと。 (5点)
- (5) い (2点)
- 3
- (1)①ア II イ I ウ III (各3点×3=9点)
- ② 土壌の名称 チェルノーゼム (3点)
- 説明 例 肥沃な土壌を生かし、小麦やとうもろこしなどの穀物栽培が盛んである。 (4点)
- ③ a パリ b モントリオール c ハバロフスク (各3点×3=9点)
- ④カ j キ h ク i (各3点×3=9点)
- ⑤サ 例 ホットスポットと呼ばれるマントル深部の熱源からマグマが上昇したため。 (4点)
- シ 例 広がる境界においてマントルからマグマが上昇して割れ目噴火が起こったため。 (4点)
- ス 例 狭まる境界の沈み込み帯において形成されたマグマにより火山列を形成したため。 (4点)

地理解答用紙	2 枚中の 2	受験番号		氏名	
--------	---------	------	--	----	--

(5年)

(2) ① X 地震 Y 熱帯低気圧 Z 火山噴火 (各3点×3=9点)

② 例 東北地方太平洋沖地震とスマトラ地震とを比較することで、国の置かれた状況による被害の現れ方や
復興プロセスの違いを考察させる。 (5点)

4

(1) A ーイー B ーエー C ーウー (各3点×3=9点)

(2) ① ーbー (2点)

② 例 バイオエタノール用の生産が拡大しており、その結果として食料用作物の生産が圧迫され、
食用とうもろこしの価格が高騰し、途上国で食料不足が起こる可能性がある。 (5点)

5

(1) ーIIー (2) D ーアトラス山脈ー E ードラコンパング山脈ー F ーマダガスカル島ー G ーキリマンジャロ山ー
(各2点×5=10点)

(3) 例 同じ民族が分断されたり、異民族同士が同じ国になったりすることがあるため、紛争が発生しやすい状態にある。 (4点)

(4) ーベルギーー (2点)

(5) 資源名 ー銅鉱ー (2点) 地帯名 ーカッパーベルトー (2点)

(6) 例 Y 地域は中緯度高圧帯に年中おおわれていて下降気流が卓越するため降水量が少なく、Z 地域は寒流のベンゲラ海流の影
響で大気が安定し上昇気流が起こりにくいため降水量が少なくなる。 (6点)

(7) c 雨温図 ーエー (2点) 理由 ー例 低緯度地方に位置するため気温の年較差が小さく、標高が高いため平均気温が低い。 (4点)

d 雨温図 ーウー (2点) 理由 ー例 中緯度の大陸西岸に位置し、夏に亜熱帯高圧帯の影響で乾燥するため。 (4点)

6

(1) 彦根 ーイー 理由 ー例 内陸に位置するため冬の気温が低く、冬季の降水量がやや多く、
(3点)

日本海側の気候の特徴も見られるため。 (4点)

(2) 例 年代別の地形図を収集し、土地利用の変遷を把握する。 (4点)

例 統計資料を収集し、観光客数の経年変化を把握する。 (4点)

(3) 例 図3と図4を比較して、城下町の土地利用の変化を明らかにする。 (5点)